

2026年度共通テストについて

試験時間:60分 / 配点:100点

- 2025年度に比べ、ページ数などが増えたが、複雑な考察を要する設問が少なく、負担感は軽くなった。
- 2025年度には出題がなかった、図選択やグラフ選択を要する問題が出題された。

共通テスト出題一覧	平均点	55.01 点
-----------	-----	---------

大問	出題単元・テーマ	特徴	小問数	平均得点率
1	人類進化とSNPからみたネアンデルタール人との交雑	問4は、現生ヒト型とネアンデルタール人型の配列が同じ部分で入れ替わっているものを比較する	4	48.61%
2	真核細胞の細胞骨格とモータータンパク質による物質輸送	現行課程の教科書には記載がない事柄だが、考察することで解き進められる	3	59.85%
3	ショウジョウバエの発生における母性因子の影響	問1について、BmRNAは「卵細胞以外の細胞で」転写され、卵細胞に運ばれることに注意する	3	37.99%
4	生物の環境応答ー植物の胚軸の成長と植物ホルモン・ガの音波受容と行動	題材どうしは文A／Bで分けるのではなく、設問に枝間をつける形で分けられている	3	57.18%
5	マングローブ植物の環境適応と代謝	問4(2)では、実験2・3の総合的な解釈に手間取っても、図4～7のグラフとの整合性から消去できる選択肢もある	4	71.39%

2027年用 パワーマックス共通テスト対応模試

編集方針と書籍の特徴

- 過去5年間の共通テストに照らし合わせ、様々な難易度の問題を掲載しています。
- 様々な出題形式に対応できるよう、最新の本試験だけでなく、追・再試験などを含む過去に出題された形式も盛り込んだZ会オリジナル問題です。
- 多くの大問で、本試験にあわせ複数の分野からの問題が含まれるようにしました。
- 共通テスト問題作成の基本的な考え方や問題作成方針を踏まえ、基本的な知識理解を問う問題から、既知ではない資料を使った考察問題、数学的な手法を用いて分析・解釈する問題も取り入れており、1冊を通じて対策できるようになっています。

出題分野別小問数

分野	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
■ 生物の進化	5	5	4	6
■ 生命現象と物質	1	7	5	2
■ 遺伝情報の発現と発生	4	5	5	10
■ 生物の環境応答	10	3	9	5
■ 生態と環境	7	8	5	5

生物



オリジナル模試4回分を収録

定価 770円(税込)
B5判 | 問題編120ページ
別冊解答・解説編44ページ

採用特典

本文データ



▶P.25~26

納品形態

問題・解答ともバラシA可

▶裏表紙

学習診断サイト

▶P.23

パワーマックス 出題一覧

第 1 回	大問	出題単元・テーマ	小問数	難易度	目安時間
	1	分布と個体数推定／ゲノムからみたタンポポの交雑	7	標準	15分
	2	幼葉鞘の屈光性／フォトトロピンと植物の温度受容	5	標準	12分
	3	シカ、植物、昆虫の三種関係	3	やや難	6分
	4	ハーディー・ワインベルグの法則と遺伝子頻度	6	標準	16分
	5	キンギョの学習行動	6	やや難	11分

第 2 回	大問	出題単元・テーマ	小問数	難易度	目安時間
	1	植物の土壌環境の違いによる種分岐	5	やや易	12分
	2	分化と遺伝子／心臓の形成と心筋再生	6	標準	13分
	3	ミツバチの行動と遺伝的多様性／昆虫の寄生生物による行動の変化と物質循環	7	標準	17分
	4	植物の乾燥ストレス応答と植物ホルモン	5	やや難	8分
	5	ルシフェラーゼによる酵素反応	5	標準	10分

第 3 回	大問	出題単元・テーマ	小問数	難易度	目安時間
	1	光合成の各過程の反応／グリア細胞の光応答とイオンチャネル	6	標準	11分
	2	ゼニゴケの生殖器官形成と遺伝子発現	3	標準	7分
	3	聴覚と気導音・骨導音／群れの利益と不利益	7	標準	14分
	4	藻類と植物の陸上進出と遺伝子	5	標準	10分
	5	年齢ピラミッドと成長曲線	3	標準	8分
	6	分裂酵母の染色体分配	4	やや易	10分

第 4 回	大問	出題単元・テーマ	小問数	難易度	目安時間
	1	核酸の構造／RNAウイルス	3	標準	5分
	2	遺伝子変異と補助因子の構造変化	3	やや難	6分
	3	育種とバイオテクノロジー／倍数性	8	やや易	18分
	4	ニードルリーフの環境適応	4	やや易	10分
	5	生態系のバランスと種間関係／各種生態系の回転速度	6	標準	12分
	6	分子時計	4	標準	9分